平成 24 年 8 月 29 日
茨城県病害虫防除所

病害虫速報 No. 5

秋冬ネギでネギアザミウマが平年より多く発生しています。

圃場をよく観察し，防除を徹底してください

［現在の発生状況］

① 8月下旬現在，秋冬ネギにおけるネギアザミウマの被害度[1)]は平年より高く（本年値68.7，平年値35.7），被害株率も平年より高い（本年値100%，平年値71.8%）（図1）。

1）被害度は，葉身の食害程度を4段階に分けて区別し（図2），以下の式により算出した値。
被害度={Σ（被害指数×被害指数別株数）／（最大指数×調査株数）}×100
最小値は0，最大値は100で数字が大きいほど被害の程度が重い。

② 気象予報（8 月 24 日発表）によると，向こう 1 か月の気温は平年より高く，降水量は平年より少ないと予想され，発生を助長する条件である。

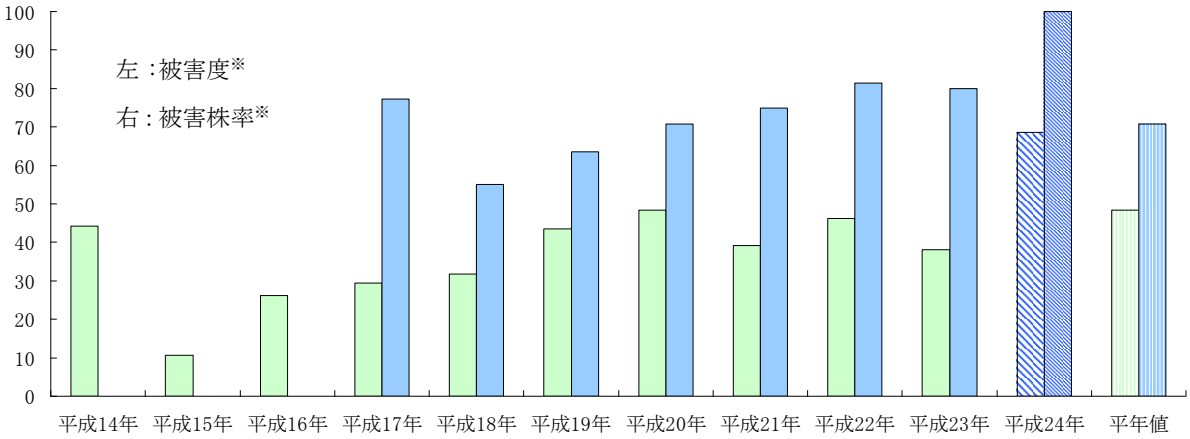

図1　8月下旬の巡回調査におけるネギアザミウマの被害度および被害株率の推移
※ 被害度は，平成14年からの調査データ（平年値：過去10年間の平均），
被害株率は，平成17年からの調査データ（平年値：過去7年間の平均）。

図2 ネギアザミウマによるネギ葉身の被害程度

被害指数：軽い　　被害指数：重い

［防除対策］

① 高温乾燥条件が続くとネギアザミウマの増殖が盛んになるため，発生状況に応じて薬剤防除を行う（表）。多発生の場合，1週間間隔で複数回散布する。なお，薬剤散布を行う場合は，収穫前日数に十分注意する。

② 雑草はネギアザミウマの生息場所となるため，圃場周辺の除草を徹底する。

③ 薬剤散布の際は，薬液が株元にも十分かかるよう丁寧に行う。また，薬剤抵抗性の発達を抑えるために，系統の異なる薬剤を散布する。

表　ネギのネギアザミウマに登録のある主な薬剤（平成24年8月20日現在）

薬剤名	希釈倍数	収穫前日数 －本剤の使用回数	有効成分 －有効成分の総使用回数	系統名
アドマイヤー顆粒水和剤	5,000倍	14-2	ｲﾐﾀﾞｸﾛﾌﾟﾘﾄﾞｰ3 （定植時までの処理1,散布2）	ネオニコチノイド系
オンコルマイクロカプセル	1,000～ 2,000倍	14-1	ﾍﾞﾝﾌﾗｶﾙﾌﾞｰ2 （定植時処理及び生育期株元散布合計1,散布1）	カーバメート系
ハチハチ乳剤	1,000倍	3-2	ﾄﾙﾌｪﾝﾋﾟﾗﾄﾞｰ2	その他
プレオフロアブル	1,000倍	3-4	ﾋﾟﾘﾀﾞﾘﾙｰ4	
ウララDF	1,000～ 2,000倍	収穫前日-3	ﾌﾛﾆｶﾐﾄﾞｰ3	
ディアナSC	2,500～ 5,000倍	収穫前日-2	ｽﾋﾟﾈﾄﾗﾑｰ2	マクロライド系

※ 農薬を使用する際は，農薬ラベルに記載されている使用方法，注意事項を必ず確認のうえ，周辺作物への飛散に留意する。